

第 49 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 26 年 10 月 28 日(火) 午前 10 : 30～12 : 00

2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室

3. 委員の出席 委員総数 8 名

出席委員 5 名

出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、中村保、高谷和彦
牧野直子

以上 5 名

放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
小川 亮 (編成課員)

4. 議 題 1) 番組 海辺スローライフ
2) 審議
3) その他番組に対する意見

5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は、10月4日に放送した「海辺スローライフ」という番組を聴いていただきました。毎週土曜日の午前10時から30分間の放送で、再放送は当日夜と、翌週火曜日の昼に放送しています。鹿児島県奄美市在住の、作曲家でピアニストの村松健さんの番組で、今年の1月からスタートしています。きっかけは、村松さんのライブに出かけたパーソナリティが自分の番組へのゲストとして出演交渉を行い、それがきっかけで、関西に来られるたびにタッキーへご出演いただきました。そして、村松さんが、コミュニティラジオ局で番組を持たれていることを知り、その番組を箕面FMでも放送させていただけないかとお願いし、承諾をいただいたという経緯です。箕面は山麓の街ですが、海辺にお住まいの村松さん、同じ自然と対峙して暮らしていらっしゃる中で、「スローライフ」をテーマに色々とお話を展開されています。時折、箕面に訪れたときの話題も盛り込んでくださっています。箕面の生活情報番組とは違ったカラーの、アーティスト・アイドルのかたの番組を箕面FMでもいくつか放送しておりますが、いずれも箕面をご存知のかた、あるいは箕面にゆかりのあるかたにこだわって編成しています。

(2) 審議

委員長：早速ご意見をいただきたいと思います。それでは、よろしく申し上げます。

委員 A：いつものタッキーのイメージと違う語りでした。ゆっくりとした話しぶりが良いなと感じました。タッキーのパーソナリティのかたは割と早口というか、間の取り方が無くて、たたみかけるように話をされるかたが多いので、こんな風にかなり沈黙が長くて、ゆっくりとお話をされて、落ち着いた感じの語り口。ピアノや三線など、ご自身の音楽と語りがマッチしていて良い感じでした。息遣いが感じられるような語り口調が新

鮮に感じました。

委員 B：タイトルどおり、スローライフ 30 分聴かせていただいたと思いました。放送時間は、夜の再放送の時間帯の方が合うのかなと思います。朝の 10 時にスローライフ、っていうのがね。確かにゆったりしたトークと後ろで流されていた音楽は聴きやすかったです。

委員 C：語り口も非常にゆったりで曲も非常に良かった。「すてきな音楽とともにゆっくりトークが楽しめるタッキーのビタミン剤にしたい」という制作意図は伝わりました。こういうネットワークの番組があって良いと思いますし、今後もつながりをうまく使っていけばいいと感じました。

委員 D：ゆったりとした時間が流れる、たいへん貴重な番組だと思います。こういうかたちの番組がね。村松さん自身、「知る人ぞ知る有名人」ですからね。かなりこういう業界では名の売れた人だし、CM の仕事も非常に多いですもんね。そういう面では、そういう業界に携わっていたから、みんなが認める才能があるというか、スローライフでそういうしゃべり方でやっておられて、間合いが空いても全然待っていられるという感じの番組だなあと思って聴いていました。音楽、ピアノ演奏もやっていらっしゃいましたが、ほんとうに都会的な、粋な音遣いができる人で、そういう感じでピアノを弾いているというのは、すごく良いなあ、という感じがしましたね。生活にも埋もれてない、ゆったりとした生活というのが感じられるから、聴いてても聴きやすいし、ということも今までのタッキーにあまりなかった放送内容だと思っています。トークも、普通のトーク。要するに、スタジオで収録する、とかそういうイメージじゃなくて、普通にしゃべっている。

委員長：先ほども意見が出たように、時間帯をもう少し考えていただいたらもっと効果が出るんじゃないかという気が確かにしました。こういった、これまでとイメージの違う番組、ワンランク上の雰囲気が出てきたなという感じもしましたので、そういったことも心がけながらやってほしいと思います。

事務局：やはり箕面に関わっている、ゆかりのあるかたたちのものを放送したいというこだわりがありますし、やはり人物を知らないとは放送はできませんので、そういう中でまた新しい著名人のかたとの番組が生まれてきたら良いなと考えています。

委員 C：極端に言うと、私なんかは箕面にこだわる必要も無いな、と。やはり面白い番組。もうひとつ、極端に言えば、どんどんネットワークを広げて、全国の FM 局と出し合って良い番組をつくる。ネットワークを活用することもこれからの課題だと思います。そこでももちろん「箕面市」にこだわってもかまわないが、それよりも良い番組、面白い番組ということを優先すべきだろうと個人的には思います。東北などは震災のあと、災害 FM局はNHKも含めてネットワークがきちっとできている。

委員長：ありがとうございました。では、その他、この間実施した緊急放送について事務局からご説明ください。

事務局：8月から10月にかけて計3回、集中豪雨と台風が発生し、緊急放送を行いました。まず8月24日～25日にかけて、夕方4時から翌朝4時30分まで、計61回緊急放送を行いました。内容は、警報が出ていること、箕面市に災害対策本部が設置されていること、避難所が開設されているので心配なかたはお早めに避難してくださいということ、主にこの3点を繰り返し2～15分おきに放送しました。通行止めなど情報が入ったときには随時更新するような形で、箕面市の「災害危険区域避難所マップ」の内容を盛り込みながら放送しました。次に9月10日の豪雨では、箕面市災害対策本部から深夜2時13分まで、5分おきに18回放送しました。また、10月13日に台風第19号が発生し、朝9時に暴風警報が発表されて、そこから深夜23時10分まで、合計50回、緊急放送を行いました。生放送が終わった夕方5時30分からは特別放送として、スタジオと災害対策本部から放送を行いました。いずれのときも、緊急災害情報サイトとツイッターでも情報を随時上げていきました。

委員長：この件について、ご意見をお伺いしたいと思います。

委員 A：そうですね。何度が経験されて、少し改善されているのが分かりました。以前のときは、ぶちっと切れて割り込んで、また通常の番組が流れて、また割り込み放送が入り、しかもお笑いみたいな番組の中に割り込まれていたのですが、台風 19 号のときの放送では、静かな音楽をバックに、まめに入っていたので聞きやすかったです。一回一回改善されると感じました。

事務局：回を重ねるごとに、私たちも勉強し、どのように放送したら情報を分かりやすくお届けすることができるか、試行錯誤した経緯があります。例えばラジオをつけて 30 秒間の間に災害情報を放送していなければ、「タッキーは何もやっていない」と苦情を頂きましたので、1 分毎に「この時間は災害情報を放送している」というアナウンスを入れて、15 分毎に災害対策本部から放送するということをしました。私たちは報道機関ではないので、情報源が非常に限られています。箕面市からの情報しかなく、新しい情報が無い中で、どのようにお伝えしたら一番良いのか、今後も課題としてあります。

委員 B：非常に頑張ったなという印象です。次は、情報をどう取っていくか。9 月の例では、NHK テレビで箕面市に暴風警報が発表されたとテロップが出て、タッキーをつけたらタッキーではまだ触れられていなくてタイムラグがある。これは恐らく情報のスピードが報道と違うだとは思いますが、どういう風にこれから情報を取っていくかというのが課題。

事務局：気象情報はどうしても NHK のような報道機関に早さでは負けてしまいます。ただ、今回は箕面市が出す避難指示に関しては、当然 NHK よりも我々の方が圧倒的に早く、タッキーで放送してから数時間後に NHK で放送された状況でした。箕面市が発信することに関しては、今後もタッキーが一番早く放送できます。ただ一番主な課題は、深夜に台風が来るだろうというときがあり、深夜の移動は危ないから早いうちに避難所を開設し、避難していただこうと、箕面市が早いうちから災害対策本部を設置しました。まだ、雨も風も激しくない状況で、全部の番組を切り替えてまで緊急放送を行うかということは今後課題として考えていかないといけないと思っています。

委員長：みなさん、お忙しい中、ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 26 年 10 月 28 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会